

第5回 蒲郡南地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成31年2月10日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：蒲郡中学校 図書室

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的、進め方とスケジュール ・前回ワークショップでの議事概要	1：35
地区利用型施設再配置プラン案について ・評価の修正 ・付帯事項	1：50
学校区についてのアンケート結果ほか（市教育委員会より）	2：05
グループ討議1 ・将来の蒲郡南地区の公共施設の配置としてふさわしい案（絞り込み）	2：10
（休 憩）	2：50
発表1	3：00
グループ討議2 ・各案について配慮すべきことや実施する上で注意すべきこと（付帯事項）	3：20
（休 憩）	4：00
発表2	4：10
あいさつ	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 1
- ・ 進め方とスケジュール 2
- ・ 第4回ワークショップの結果概要（案） 3
- ・ 第4回ワークショップふりかえりシートご意見 12
- ・ ご質問等への回答 18
- ・ 評価に関する修正意見についての対応及び考え方 22
- ・ 蒲郡南地区 地区利用型施設再配置プラン案 29
- ・ 再配置プラン案の評価検証【修正版】 31
- ・ 付帯事項について 34
- ・ 本日の検討内容 36
- ・ （別冊）項目ごとの評価の解説【修正版】

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた蒲郡南地区（蒲郡中学校区）の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

ステップ1 ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。

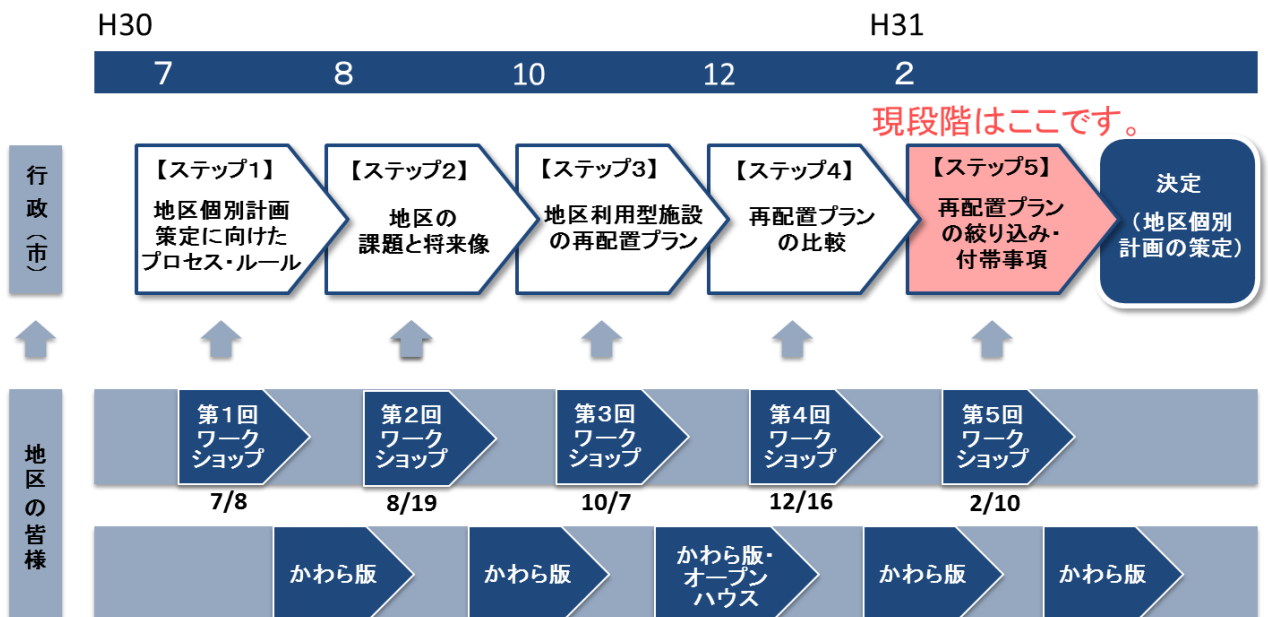
ステップ2 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。

ステップ3 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。

ステップ4 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。

ステップ5 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



第4回ワークショップの結果概要（案）

1 評価項目及び評価結果に関する意見

②学校教育環境の適正化

＜エ＞適切な学校規模が維持されているか。

- 国の基準（12 学級以上 18 学級以下）も 30 年後には変わってくる可能性もある。まずは、蒲郡市としての適正な規模についての考え方を持つ必要がある。
- 客観的に検討することも重要だが、一方で過去の経緯や事情を踏まえて検討を進めることも大事である。もし、児童数の減少に応じて小学校を統合することになるのであれば、小学校を増やす前の状態に戻すのがよい。具体的には、竹島小学校と中央小学校を南部小学校に統合し、旧蒲郡中学校の学校区エリアに戻せばよいと思う。
- 竹島小学校と南部小学校については、適正な学校規模を考えると、どちらかの敷地に機能を集合するとよいと思うが、通学距離や避難所までの距離などを考慮すると、竹島小学校に機能を集合した方が蒲郡中学校区全体としての配置のバランスがよいだろう。

＜カ＞小学生の通学のしやすさは保たれているか。

- 小学校の機能を集合することで、通学距離が今までより長くなり必ず不便になる児童が出てくる。国の基準では問題がないということだが、現状より不便になる児童がいるなかで「○」と評価するのは、違和感がある。
- 小学校はすぐに統合するということではないだろう。将来的に小学校に通わせる保護者は、その時点で立地も含めた学校の状況を踏まえて、居住地をどうするのかを考えるだろう。現在と比較して不便が生じるかどうかという視点は必要ないのではないか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 竹島小学校周辺は新しい戸建が目立つし、南部小学校周辺にも新しいマンションが建設されている。子どもの通学のことを見据えて、各小学校の周辺に引っ越してくる家庭も多いだろう。単純に人口の自然増減だけでなく、まちの変化も考慮した上で施設配置の検討が必要だ。
- 南部小学校周辺は道路が狭く、歩道もないなど、交通安全の視点で「通学しやすさ」に問題がある。そういった周辺の道路環境も評価に反映してほしい。竹島小学校が南部小学校に統合するA案、A'案は評価を「○」から「△」にするのが適当である。
- 多少でも通学距離が長くなるのであれば、低学年に対しては防犯面や交通安全面からも配慮が必要である。

＜キ＞子ども達と地域とのつながりは強まっているか。

- 「子ども達の地域とのつながり」を学校と公民館の立地関係だけで評価することに違和感がある。この評価項目のままならば、“地域活動への子どもの参加状況”など実態に即した評価を行ってほしい。あるいは、評価項目を変更して、「学校と公民館の関係性」、あるいは、「子ども達の地域とのつながりが強まる可能性が高まったか」などにしてほしい。
- 「子ども達の地域とのつながり」が強まるかどうかは、例えば、公民館で行われる文化サークルと小学校の部活動の連携等で交流が深まる可能性はあると思う。立地条件というよりは、施設の運用等ソフト面次第だと思う。
- 「子ども達の地域とのつながりが強まるかどうか」で期待したいことは、児童と公民館を利用する高齢者との交流だろう。「①地域での活動・交流の盛り上がり」の視点にあった方が適切ではないだろうか。

③子育てしやすい環境づくり

＜ク＞子育てに関する様々な活動がまとめて行える子育ての拠点ができるか。

- 評価項目の「子育ての拠点」という表現がわかりにくい。理解しやすい表現にしてほしい。
- 小学校、保育園、児童館の機能が集合していると、子育てはしやすく便利だと思う。子どもたちも保育園から小学校まで同じ場所で過ごせた方が安心感をもつだろう。
- 将来的には、例えば学校のプールなど現在と同じような施設や設備が必要ではなくなるかもしれない。そうすると現状より敷地に余裕ができ、保育園、児童館、公民館といった施設を集約して整備しやすくなるのではないか。
- 小学校と保育園の距離を近くすること以上に、質の高い保育環境を提供することの方が重要である。竹島小学校の方が南部小学校の敷地より広く、より良い保育環境を整備しやすいのであればA案が良いだろう。また、東部小学校、東部保育園敷地にも小学校、保育園、公民館、児童クラブの機能を集合させることで、新たな保育園が十分に整備できるのであれば、A'案の方が望ましいと思う。

＜コ＞保育園児や小学生を同時に送迎しやすくなったか。

- 現状でも保育園と児童クラブがそれほど遠いわけではないので、より近い位置関係にすることを評価する項目は、それほど重要ではないのではないか。
- 公立の保育園だけでなく私立の幼稚園などに通園させている家庭もある。送迎バスがある園もあるため、多様なケースや手段があることを念頭において考える必要があるだろう。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

＜サ＞保育園に自動車で送迎しやすくなったか。

- 南部保育園周辺は道路が狭く、歩道が無かったり、一方通行も多い。周辺道路環境の視点で評価すると、A案、A'案は「◎」ではなく、「○」か「△」にするのが妥当だと思う。

④高齢者のにぎわい

＜ス＞高齢者が活躍できる機会は増えたか。

- 公民館の利用者はほとんどが高齢者である。今後、さらに高齢化が進めば、公民館を利用する高齢者は増加傾向となることが予想できるため、公民館を減らしてよいのか疑問である。
- 今後、ますます身近な場所に交流拠点となるコミュニティ施設が求められることから、公民館と集会所の役割を再整理し、集会所を公民館のように利用する方法も検討すべきではないか。
- 公民館は、現在、地域組織が指定管理者となって運営しているため、利用頻度や活動内容にばらつきがある。再編を機に施設・設備の質を高めるとともに、より良いサービスを提供することで、有効利用を促進すべきだ。

＜セ＞高齢者が地域との関わりを持ちやすくなったか。

- 公民館と他施設との位置関係でだけで「高齢者が地域と関わりを持ちやすくなった」ということにはならないので、立地条件のみで評価するのは適切ではないのではないかな。

⑤安全の確保（地域防災・利用者の安全）

＜タ＞津波・高潮の想定浸水域に立地している施設が速やかに移転できる配置になっているか。

- 府相保育園の移転は早急に進めることであり、第一に優先すべきことだ

と考えている。その視点で原案の中から考えると、すぐに移転可能な南部小学校敷地へ移転するB案、B'案、C案にするしかない。

＜チ＞災害時の避難所・避難場所は確保されているか。

- 各案一律で「○」の評価だが、小学校の統合によって避難所・避難場所が十分に確保できない地域も出てくるのではないか。具体的な場所を想定しながら検討する必要がある。
- 災害時は、指定の小・中学校に避難しなくても、その時近くにある避難場所に逃げるなど、基本はどこに逃げてもよいことになっている。そのため、何らかの避難場所が近隣に確保されているかという視点で評価できていればよい。
- 竹島小学校の近くには西田川が流れており、災害時の避難路の確保や浸水などの面で不安要素となる。評価が下がらないか。

⑥利便性の確保

＜ト＞公民館に高齢者が徒歩で利用しやすい配置になっているか。

- 高齢者が歩いていける場所でコミュニティ機能が必要になってくるため、集会所の有効活用を考えるとともに、公民館との役割分担を見直す必要があるのではないか。

＜ナ＞公民館に駐車場は十分に確保されるか。

- 評価項目の「公民館に駐車場は十分確保されるのか」の判定のあり方がよく理解できない。学校跡地の活用で公民館に十分な駐車場を確保できるであろう、A案、A'案、B案を「◎」にしているとのことだが、全ての公民館に十分確保される場合のみを「◎」にするべきではないか。
- 今後、高齢者の免許証の返納も増えてくると思われる。公民館に必要な駐車場の台数も減ってくるのではないか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

⑦将来負担の縮減

- 平成 35 年に建替えを行うと仮定して縮減額を算定しているということだが、実際にそれぞれの施設の建替え時期に合わせての計算でないと説得力がない。比較のために建替え時期を合わせているのであれば、各施設の残存価値を考慮した計算方法をとってほしい。
- A 案、A' 案は、東部保育園の移転を東部エリア内にするか、他のエリアにするかだけの違いであるのに、なぜ 15 億円近くも差ができるのだろうか。費用の内訳をもう少し詳細に確認しないと納得できず作作的に感じてしまう。また、評価結果点数表をみると、将来負担に関する項目は 25% の重みづけのようだが、ここまでの重みにする必要性がよくわからない。
- 小学校の統合案には劣るものの C 案、D 案でも、現状との比較では将来負担は縮減されている。将来の人口予測がつかない上に、市の推計でも 30 年後に 12 クラスを維持できる見込みとなっているなかで安易に統合を進めるのではなく、統合しない案を前向きに検討してもよいのではないか。
- C 案と D 案は、児童数が減少することが予測され、また、LCC（ライフサイクルコスト）の縮減効果からも、妥当な案ではないのではないか。
- コスト面で考えると、小学校・保育園・児童館の機能が集合されていたり、小学校を統合した方がメリットがあるだろう。
- 保育園の給食は原則自園式だが、現在は南部保育園のみである。今後、低年齢児保育（0～2 歳）の需要を踏まえて受け入れを増やすのであれば、自園式が不可欠になってくるだろう。その場合は、コストも多少増えるのではないか。

2

再配置プラン案に対する意見

- ダッシュ案は前回の案の改良案になっていることから、A案、B案、D案を外して、A'案、B'案、D'案だけに絞り込んでもよいのではないかと。
- A案、A'案についてだが、南部小学校に竹島小学校を統合した後の跡地には、府相公民館よりも大きい全市的な施設としての公民館機能を配置するとともに、グラウンドなどの機能も残してほしい。
- 東部地域には児童館もない。その上、東部保育園が別エリアに移転してしまったら、子育て層がますます魅力を感じない地域になってしまう。A案以外の東部小学校、東部保育園、東部公民館、児童クラブ機能を集約するという案は、子育て層にとっては利用しやすく良い影響を与えると思う。東部地域の立場で考えると、A案は避けてほしい。
- B案、B'案、C案のように、南部保育園に府相保育園の機能を集合する際は、増築を前提にしているとのことだが、スペースに余裕がないために新築が必要になってくるのではないかと。
- C案は、道路環境が悪い南部小学校敷地に府相保育園を移転する案になっている上に、評価結果の点数の合計値が低く総合的に評価も低いため、比較案から外してもよいのではないかと。
- 東部地域が保・小・公の機能を一か所にまとめる案があるのであれば、南部小、竹島小地区も同様の案で進める方が、地区のまとまりが維持されて良い。

＜評価方法について＞

- 「○」は現状維持と一長一短の2つの意味があるが、一長一短はマイナスの影響も生じているので、現状維持とは明らかに意味が異なる。これを同じ評価とするのは違和感がある。一長一短の評価での「○」は、「△」とし、現状より低下の「△」は「×」としてほしい。見た目でごまかさないでほしい。

＜小学校の統合について＞

- 小学校の統合については、ワークショップとして結論が出せないのではないかな。これまでのように「もし、〇〇小学校側に移転した場合は…」で話し合う程度にしたい。

＜再編の考え方について＞

- 公共施設の再編については蒲郡南地区だけで考えるのではなく、もう少し広域で考える必要がある。例えば、将来負担の縮減の視点で見ると、中部中学校と蒲郡中学校の統合を検討してもよいと思う。また、財政負担を抑えるために、今回の検討の対象外ではあるものの、市民病院の運営のあり方を見直すことが必要だ。
- 将来的に蒲郡公民館は、南部小学校に複合化される案になっているが、中部中地区の方も利用していることを考えると、利便性から蒲郡中学校に複合化することを検討してもよいのではないかな。
- 例えば最近では、市外の高校に通う子どもも多く、市内の3高校への進学が当たり前だった時代とは違ってきている。また、保育園の通園バスを導入して距離的な負担を補うことはできるが、共働き世代の場合、帰りの時

間がバラバラのため、効果は限定的かも知れない。公共施設の再編については、将来のニーズやライフスタイルを十分に考慮して議論する必要がある。

＜府相保育園の考え方について＞

- 府相保育園の早急な移転は急務であり、それが実現できない案を選択することは難しい。府相保育園を早急に、より良い条件の移転をするために、現在の案にこだわらず他にどんな可能性があるのか、引き続き検討してもよいのではないか。

例) ① 蒲郡中学校に移転

② 給食センター跡地に移転

③ 地区内にある公園や市が所有する空き地への移転

④ 南部保育園の2階にあるがまごおり児童館を府相公民館と合わせて竹島小学校内に複合化。2階の空いたスペースを活用し、府相保育園と南部保育園を統合

第4回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- よく意見が出されており、見識を広げられたように思いました。
- 全員意見が言えたことが良かったです。
- 全員が十分に意見を述べたこと。
- 論点をしぼって話せて良かったです。
- それぞれの案を見直すことができた。(前回欠席だったので…)
- 大分具体的な話ができたとと思います。明確になってきました。
- より具体的な議論ができた。
- 私としては、十分に話できました。
- 疑問点について確認できたこと。
- 以前より議論の内容が理解できたこと。
- 評価を振り返ることができてよかった。
- 違った見方をする人がいて、その見方は自分がしていなかったので参考になった。
- 評価の金額をみると効果が大きい所を選びやすいが、差が大きい点など市の方や話し合いができ、もう少しじっくり考えたいという思いがあり、納得できました。
- 各案の評価がわかりやすく表になっていたので話し合いやすかった。
- 将来負担の金額や、オープンハウスでの住民の方の意見などをもとに議論をすることができ、再配置プランも今まで以上に現実味のあるものになったのではないかと感じました。
- 府相保育園の早急な移転を考えていただきたい。上記話が出たのがよかった。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 議論が具体的になってきた。評価表やプランなども議論に必要な資料もそろっていた。
- グループごとの意見がよくわかりました。ワークショップで良いと言われた A' と D 蒲南学区の欠点がよくわかったので、地域で話し合ってよくしていきたいと思います。支え合いの場でも出ていたことなので…。
- 一度 A' にすることに住民が対応するのは少し難しいと思い、D→A' のようなステップを踏むこともできるのではないかと思います。
- A、A'、B、B'、C、D、D'の7つのプランの中から各テーブル毎にいろいろな考え方でそれぞれしぼり込まれてきた。ただ、気になったのは、同じ地区の方、例えば「東部は1つの方がいい」という例の場合、だれでも1つの方がいいのになぜはじめのプランは分かれることになったのかを深く考えているかどうか？
- 5名の欠席が少々残念。

2 内容について言い足りなかったこと

- 「地域とのつながり」「高齢者の活躍」等、定義付けや具体的イメージが分かりにくく感じました。そのため、ゴールがどこなのかが不明瞭で、評価（◎、○、△）が本当に適切なのか、確信が持てませんでした。
- 校区は校区で仕切り、学校選択制などを採用して、個々の家庭が動くのもありだと思いました。（お祭りなどを考えたとき。）防災の視点でも地域の区切りは大事だと思います。
- 市民の痛みは平等にさせていただくのが、公平ではないでしょうか？（小学校がなくなる地域、公民館がなくなる地域など）沿岸部での公共施設がなくなるのは仕方ないですが、人口密度は考慮すべきではないでしょうか。
- 改めて、区割りの見直しを要望します。蒲中学区と中部中学区は一体で見直す。（最終的に）もっと市役所財務課（市として）としての考えまたは案を出すべきではないのか。
- 小学校の合併は難しいと感じました。
- 南部地区のみでなく、市全体的に考えるのが良いと思われる。
- 公民館の活動には、各々特徴があります。各公民館長にお集まりいただき、公民館の有り方、今後の進め方の議論をしていただき、統廃合の参考にしたいと考えます。
- 保育園と小学校、公民館の機能が同じになることで、ヨコの関係とタテの関係が相乗効果になると思う。
- 府相保育園は早急に安全な場所へ移転できるとよいと思います。南部保育園または竹島小に移すのが難しいようならば、蒲郡中に移すことも検討にいられて良いのではと感じました。
- 竹島小学校に府相保育園がすぐ移動できないなら、案に入れる必要はないかと思いました。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 府相保育園について、竹島小建替え時に移転、集合とのことなので、A 案は無しだったのですが、府相公民館を2階建てにしてみることができませんか？→そこに府相保育園を。よくよく考えると、南部には送迎の駐車場が充分にとれないと思う。
- 蒲中、中部中の統合まで含めて考え、さらに、小中交換、サンヨネとの交換など、もっと枠を広げたアイデアを十分に語りたかった。（少し語ることはできました。）
- LCC
- 行政は、決められたことについてどのように施策実行責任をとるのか？30 年先、50 年先の試算をして、どうなるか？直近の3 年先、5 年先を具体的にどうするかが重要。
- 1. 学校統合で考えれば B'プラン 理由は、
 - ・三谷小、中央小とのバランスがとりやすい
 - ・子供の通学時安全面
 - ・府相公民館とのプラス効果
 - ・南部小の土地の有効活用度が竹小より高い など
- 2. 災害時の避難所の確保の件
 - ・今後、大地震の「可能性が高くなったとき出る“臨時情報”」が出た時の避難者の数は、確実に今までより増えると思います。
 - その時の対応も考えておいてほしい。
- 1. 東部小学校用地に生活道路が通っていることについて
道路より東の部分は大半が真牧寺の土地であって現在の南の正門よりお寺に向かって参道がありその参道を両側に移転したのであってその西側に昭和 50 年に体育館を建設されました。
- 2. ワークショップ本来の目的は市内の公共施設の削減が主目的ではないのですか

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

目的達成のためには現在市内公共施設の40%位は旧蒲郡町地内にあります。蒲郡地内全体を対象として検討すべきだと思います。

小学校について

旧南部小の校区の地域に元に戻します。

竹島小は開設当初より指摘されました市行政の末端を受け持っている常会を二分することによりその運営上大きな問題が起こりました。（常会運営、子供会、通学団等）

諸問題を解決するため元の通学区域に戻すべきです。竹島小には竹島コミュニティセンターとして府相公民館の移設に始まり現在の建物を活用して勤労福祉会館及び生きがいセンターの移設をされ、体育館、プールは市民プールとして活かされたらどうですか。平田町に川西地区を1年でも早く東部小校区に戻して下さい。

勤労福祉会館には小江公民館、蒲郡公民館

中央小校区の人達を対象にされてはどうでしょうか。

小江公民館は地区集会所として地区に払い下げる。

中央小学校も南部小に戻しプールは残して体育センターの諸設備の移転
中部中学校を蒲郡中学校に戻し旧給食センター跡地は学校行事の時臨時
駐車場と職員駐車場として活用する。

中部中学校には西部小学校と北部小学校を合併して校名をみかん里にふさわしいタチバナ（橘）小学校とする。

西部小の跡地には神ノ郷城跡、赤日子（赤比古）焼き出土した歴史的な地区ですから図書館と博物館の移転等をして赤日子コミュニティセンターとす。プール、体育館は地域活動の拠点として残す。北部小には清里コミュニティセンターとする。プールは市民プールとして活用、将来的には保健センター等市民の保健に関する設備を移転する候補地とする。

市民病院の市民の健康のために大事な部門であるが基の維持管理に莫大

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

資金が必要で此の際に諸条件が整えば名古屋市立大学に全面譲渡して、公共建物の整備資金とされてはどうか。

- ・ 図書館の跡地には蒲郡中央保育園として近未来的な保育園を建てられたら。他の保育園は現在地で身近な保育園として駐車スペースの少しあるコンパクトな園舎に1階を保育室2階を遊戯室にされては。

- ・ 市民会館は民間の活力を生かした名古屋の御園座等の形を取れないでしょうか。

- ・ 体育センターの跡地には市役所の機能の移転

- ・ 水族館近くに水族館の機能と生命の海科学館の中に生命に関する機能の合わせた施設を作ることにより海洋生物の進化の度合いを学ぶことができるのではないのでしょうか。

ご質問等への回答

- もし、児童数の減少に応じて小学校を統合することになるのであれば、小学校を増やす前の状態に戻すのがよい。具体的には、竹島小学校と中央小学校を南部小学校に統合し、旧蒲郡中学校の学校区エリアに戻せばよいと思う。
- 公共施設の再編については蒲郡南地区だけでなく、もう少し広域で考える必要がある。例えば、将来負担の縮減の視点で見ると、中部中学校と蒲郡中学校の統合を検討してもよいと思う。
- あらためて区割りの見直しを要望します。蒲中学区と中部中学区は一体で見直す。（ふりかえりシートより）
- 蒲中、中部中の統合まで含めて考え、さらに、小中交換・サンヨネとの交換などもっと枠をひろげたアイデアを十分に語りたかった。（ふりかえりシートより）

【検討の対象区域について】

- このワークショップでは、検討の対象を蒲郡南地区（蒲郡中学校区）にある地区利用型施設としており、ご参加いただいている皆様には、地区内での将来の施設の配置を検討していただいています。
- ただし、隣接地区にまたがる再編の必要性については、ご意見として受け止め、今後の検討の参考にさせていただきます。

- 府相保育園について、竹島小建替え時に移転・集合とのことなので、A案は無しだったのですが、府相公民館を2階建てにしてみようことはできませんか？→そこに府相保育園を。よくよく考えると南部には送迎の駐車場が充分にとれないと思う。（ふりかえりシートより）

【府相保育園の竹島小学校敷地への移転について】

- 第1回ワークショップで説明しましたとおり、このワークショップは、「府相公民館の竹島小学校敷地への移設」を前提として進めています。
- 府相公民館については、平成32年4月の供用開始に向け、これまで、PTA、学校、公民館、市の間での話し合いをもとに設計を進めてきており、現在は、設計の最終段階に入っています。今年6月頃には工事に着手する予定です。
- また、計画されている敷地内での施設の配置を前提に、公民館（計画では平屋建て）の2階に保育園を設置すると、保育園に必要な園庭や駐車場の確保が困難になります。
- 以上のことから、府相保育園を竹島小学校敷地へ移転する場合には、移転を竹島小学校の建替え時期に合わせる必要があります。

- 府相保育園の早急な移転は急務であり、それが実現できない案を選択することは難しい。府相保育園を早急に、より良い条件の移転をするために、現在の案にこだわらず他にどんな可能性があるのか、引き続き検討してもよいのではないか。

例) ① 蒲郡中学校に移転

② 給食センター跡地に移転

③ 地区内にある公園や市が所有する空き地への移転

④ 南部保育園の2階にあるがまごおり児童館を府相公民館と合わせて竹島小学校内に複合化。2階の空いたスペースを活用し、府相保育園と南部保育園を統合

【府相保育園の移転先について】

(①について)

- 保育園には、園庭や駐車場も必要なことから、蒲郡中学校の敷地に配置することにより中学校の活動が大きく制限されと考えられます。参考に、各学校の敷地面積及び運動場面積を掲載しました。(p.21)

(②について)

- 府相保育園(敷地面積: 4,775 m²)の移転先として旧給食センター跡地(1,881 m²)では敷地面積が狭く、配置が困難だと考えています。

(③について)

- 地区内の市有地を表す地図を各テーブルに用意しました。検討の参考にして下さい。

(④について)

- p.19 の回答と同様の理由で、がまごおり児童館を竹島小学校敷地へ移転する場合には、移転を竹島小学校の建替え時期に合わせる必要があります。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

(参考) 各学校の敷地面積及び運動場面積

学校	敷地面積 (㎡)	運動場面積 (㎡)	平成30年度 児童生徒数 (人)	1人当たりの 運動場面積 (㎡)
南部小学校	23,411	11,222	332	34
東部小学校	17,446	5,751	284	20
北部小学校	17,593	9,194	323	28
西部小学校	10,754	5,349	67	80
三谷小学校	16,811	7,407	215	34
塩津小学校	19,120	7,736	527	15
大塚小学校	17,202	9,089	297	31
形原小学校	12,406	5,158	353	15
西浦小学校	18,832	8,128	245	33
形原北小学校	23,671	12,083	520	23
中央小学校	21,775	7,938	304	26
三谷東小学校	35,964	12,667	303	42
竹島小学校	20,880	8,225	329	25
蒲郡中学校	30,952	17,062	517	33
三谷中学校	43,629	18,933	294	64
塩津中学校	38,609	10,785	257	42
大塚中学校	20,047	7,660	147	52
形原中学校	27,427	14,934	474	32
西浦中学校	40,131	10,604	101	105
中部中学校	24,444	14,662	334	44

※ 蒲郡中学校の敷地面積及び運動場面積には、飛び地のテニスコートの面積(3,541㎡)を含む。

評価に関する修正意見についての対応及び考え方

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
1	全般	「○」は現状維持と一長一短の2つの意味があるが、一長一短はマイナスの影響も生じているので、現状維持とは明らかに意味が異なる。これを同じ評価とするのは違和感がある。一長一短の評価での「○」は、「△」とし、現状より低下の「△」は「×」としてほしい。見た目でごまかさないでほしい。	○ご意見を踏まえ、一長一短として評価した場合の記号を「●」に改めました。 ○ただし、一長一短としている項目には、現状より向上させる側面と、低下させる側面があることから、「評価結果点数表」では、現状維持と同等の扱いをしています。 ○また、「△」の記号は、議論の継続性とわかりやすさを保つために変更せずに進めたいと考えています。 ○「△」の記号は、定義どおり、「現状より低下」を表すものとしてご理解下さい。
2	工	国の基準(12 学級以上 18 学級以下)も30年後には変わってくる可能性もある。まずは、蒲郡市としての適正な規模についての考え方を持つ必要がある。	【市教育委員会の回答】 ○ご指摘ありがとうございます。市教育委員会としても同じ問題意識をもっています。 ○現在は、国の基準(法)を基盤にし、地域の特性を考慮して学校のあり方を考えています。
3	力	小学校の機能を集合することで、通学距離が今までより長くなり必ず不便になる児童が出てくる。国の基準では問題がないということだが、現状より不便になる児童がいるなかで「○」と評価するのは、違和感がある。	○文部科学省は、通学距離が「4km 以内」を小学校の適正な規模として妥当とし、通学時間は「1 時間以内」を目安としています。 ○このことを踏まえると、通学距離・通学時間ともに妥当な水準より大幅に短いと考えられる小学校から半径1.5km の範囲内の人口(別冊資料「項目ごとの評価の解説【修正版】」p.5 図表3)をみて案による差がわずかであることから、小学校が統合した場合にも適正な通学距離が保たれるため、全ての案を「○」としています。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
4	力	小学校はすぐに統合するということではないだろう。将来的に小学校に通わせる保護者は、その時点で立地も含めた学校の状況を踏まえて、居住地をどうするのかを考えるだろう。現在と比較して不便が生じるかどうかという視点は必要ないのではないか。	○地区の皆様にとって使い勝手や魅力が良くなる案かを判断するために、「現状」を基準としています。 ○ただし、評価は、将来の人口減少や少子高齢化等の社会の変化を踏まえて行う必要があります。
5	力	南部小学校周辺は道路が狭く、歩道もないなど、交通安全の視点で「通学しやすさ」に問題がある。そういった周辺の道路環境も評価に反映してほしい。竹島小学校が南部小学校に統合するA案、A'案は評価を「○」から「△」にするのが適当である。	○ご意見を踏まえ、項目二「通学の安全性は高まっているか。」を追加し、南部小学校の位置で小学校を統合するA・A'案を「△」、その他の案を「○」としました。
6	キ	「子ども達の地域とのつながり」を学校と公民館の立地関係だけで評価することに違和感がある。この評価項目のままならば、“地域活動への子どもの参加状況”など実態に即した評価を行ってほしい。あるいは、評価項目を変更して、「学校と公民館の関係性」、あるいは、「子ども達の地域とのつながりが強まる可能性が高まったか」などにしてほしい。	○ご指摘のとおり、子ども達の地域とのつながりを強めるためには、運営上の工夫が重要ですが、今回の評価では、施設の再配置による効果を比較するために、小学校と公民館の立地関係で「子ども達の地域とのつながり」の強まる可能性を評価しています。 ○ご意見を踏まえ、「子ども達の地域とのつながりが強まりやすくなったか。」に項目を修正します。 ○なお、運営上の工夫については、付帯事項（再配置の実施後に配慮すべきことや実施する上で注意すべきこと）として整理していきます。
7	キ	「子ども達の地域とのつながり」が強まるかどうかは、例えば、公民館で行われる文化サークルと小学校の部活動の連携等で交流が深まる可能性はあると思う。立地条件というよりは、施設の運用等ソフト面次第だと思う。	○6番に同じ

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
8	キ	「子ども達の地域とのつながりが強まるかどうか」で期待したいことは、児童と公民館を利用する高齢者との交流だろう。「①地域での活動・交流の盛り上がり」の視点にあった方が適切ではないだろうか。	○ご意見を踏まえ、当該項目を視点①「地域での活動・交流の盛り上がり」に移動しました。
9	ク	評価項目の「子育ての拠点」という表現がわかりにくい。理解しやすい表現にしてほしい。	○子育てに関する様々な機能が集まり、利用者がワンストップで様々な活動を行え、施設の運営者間での連携を取りやすい状態の施設を「子育ての拠点」としていました。 ○ご意見を踏まえ、この項目を「子育てに関する様々な活動が連携しやすくなったか。」に修正します。
10	コ	現状でも保育園と児童クラブがそれほど遠いわけではないので、より近い位置関係にすることを評価する項目は、それほど重要ではないのではないか。	○「児童クラブと小学校が同じ場所で行われる方が、子どもの移動の負担もないので良い。」との意見があったことから、この項目を設定しています。 ○全ての案で小学校内に児童クラブ機能に移転することとしていますので、全ての案を「◎」と評価しています。
11	サ	南部保育園周辺は道路が狭く、歩道が無かったり、一方通行も多い。周辺道路環境の視点で評価すると、A案、A'案は「◎」ではなく、「○」か「△」にするのが妥当だと思う。	○確かに小学校の統合により児童数は増加しますが、南部保育園への自動車での送迎のしやすさの観点での周辺道路環境は、現状と大きく変わらないと考えています。 ○そのため、A・A'案の評価は修正せず、「◎」とします。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
12	セ	公民館と他施設との位置関係でだけで「高齢者が地域と関わりを持ちやすくなった」ということにはならないので、立地条件のみで評価するのは適切ではないのではないか。	○ご指摘のとおり、高齢者が地域と関わりを持ちやすくするためには、運営上の工夫が重要ですが、この評価では、施設の再配置による効果を比較するために、公民館と保育園や小学校との立地関係で高齢者その他の地域住民との関わりの強まる可能性を評価しています。 ○なお、運営上の工夫については、付帯事項（再配置の実施後に配慮すべきことや実施する上で注意すべきこと）として整理していきます。
13	チ	各案一律で「○」の評価だが、小学校の統合によって避難所・避難場所が十分に確保できない地域も出てくるのではないかと。具体的な場所を想定しながら検討する必要がある。	○別冊資料「項目ごとの評価の解説【修正版】」p.13 図表6で示しており、全ての案で災害の危険から一時的に避難する「指定緊急避難場所」は、施設再配置後も現状の配置の近隣に代替となる場所の確保が可能です。 ○また、災害により自宅に戻れなくなった住民等が一時的に滞在する「指定緊急避難所」について、施設再配置後も愛知県の被害予測に基づく必要な人数分確保していくことから全ての案を「○」としています。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
14	チ	竹島小学校の近くには西田川が流れており、災害時の避難路の確保や浸水などの面で不安要素となる。評価が下がらないか。	○蒲郡市の「洪水・土砂災害ハザードマップ」によると蒲郡南地区の地区利用型施設の中では、竹島小学校敷地及び府相保育園敷地は、西田川がはん濫した場合の浸水予想区域に含まれています。 ○検討している再配置プラン案では、全てのプランで竹島小学校敷地が活用され、避難路においても全てのプランで共通の課題となります。 ○このことから、評価項目として設定した場合の判断は、一律の評価となるため、浸水予想区域の土地を利用する施設については、大雨や洪水時の対応方法を付帯事項（再配置の実施後に配慮すべきことや実施する上で注意すべきこと）として整理します。
15	ナ	評価項目の「公民館に駐車場は十分確保されるのか」の判定のあり方がよく理解できない。学校跡地の活用で公民館に十分な駐車場を確保できるであろう、A案、A'案、B案を「◎」にしているとのことだが、全ての公民館に十分確保される場合のみを「◎」にするべきではないか。	○現状を基準とし、全ての公民館で現状と同規模程度の駐車場の確保が可能な案を「○」とし、現状より広い駐車場の確保が可能な案を「◎」としています。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
16	将来負担の縮減	平成35年に建替えを行うと仮定して縮減額を算定しているということだが、実際にそれぞれの施設の建替え時期に合わせての計算でないと説得力がない。比較のために建替え時期を合わせているのであれば、各施設の残存価値を考慮した計算方法をとってほしい。	○同じ条件の下で各案の縮減額を比較するために、機能の集合を伴う建替えは、一律で平成35年に行うことを試算条件に設定しています。 ○ご意見を踏まえ、試算上平成35年に建替えを行うこととしている施設については、地方公会計制度に基づく固定資産台帳上の平成35年3月31日時点の建物本体の簿価の見込額を残存価格として費用に上乗せして計算しました。（別冊資料「項目ごとの評価の解説【修正版】」p.18 図表9） ○残存価格はC案は、126,218千円、その他の案は126,301千円でした。（図表9は、百万円単位で作成していますので、全て126百万円の表記となっています。） ○なお、案による差がわずかでしたので、「評価結果点数表」には反映させていません。

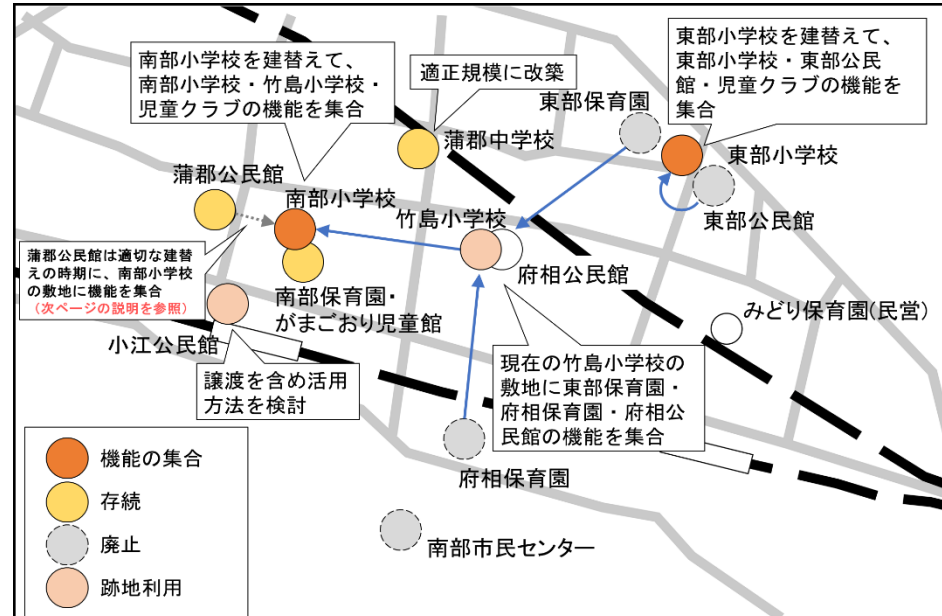
番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
17	将来負担の縮減	A 案、A' 案は、東部保育園の移転を東部エリア内にするか、他のエリアにするかだけの違いであるのに、なぜ 15 億円近くも差ができるのだろうか。費用の内訳をもう少し詳細に確認しないと納得できず作為的に感じてしまう。また、評価結果点数表をみると、将来負担に関する項目は 25% の重みづけのようだが、ここまでの重みにする必要性がよくわからない。	○別添資料「項目ごとの評価の解説【修正版】」の p.18 図表 9 に費用の内訳を掲載しました。 ○A 案と A' 案の差は、総額で 1,419 百万円ですが、その内、「運営にかかる市の支出」の差は、1,204 百万円と大部分を占めています。 ○保育園の統合により長期間にわたり運営費（人件費、光熱水費等）が縮減されることから大きな差が生じています。 ○また、75 点と 25 点の配点については、第 4 回ワークショップで説明したとおり、蒲郡市公共施設マネジメント基本計画の 5 つの原則の内、施設の再配置に直接関係のない「実行力」を除く 4 つの原則の中で、「適正化」が将来負担との関係が密接であることから、4 原則の内の 1 つが「将来負担」という考え方のもとで、100 点中の 25 点を将来負担に関する項目の点数としています。 ○「評価結果点数表」は、案による差を分かりやすくするために作成したものです。検討の参考として活用してください。
18	将来負担の縮減	保育園の給食は原則自園式だが、現在は南部保育園のみである。今後、低年齢児保育（0～2 歳）の需要を踏まえて受け入れを増やすのであれば、自園式が不可欠になってくるだろう。その場合は、コストも多少増えるのではないか。	○ご指摘のとおり、低年齢児保育の需要増加を踏まえて、今後、保育園を建替える際には、自園調理設備の設置が必要になると考えています。 ○なお、自園調理の導入を含む保育園の運営については、付帯事項（再配置の実施後に配慮すべきことや実施する上で注意すべきこと）として整理していきます。

A

学校規模を維持し教育の拠点と子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】③④⑩

- 蒲郡南部小学校の敷地に、蒲郡南部小学校、竹島小学校、児童クラブの機能を集め、教育の拠点をつくります。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 現在の竹島小学校の敷地に、東部保育園、府相保育園、府相公民館の機能を集め、保育と地域活動の拠点をつくります。
- 蒲郡東部小学校の敷地に、蒲郡東部小学校、東部公民館機能を集めます。
- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。



特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 現在の竹島小学校の敷地を有効活用でき、保育園の園庭や駐車場に余裕がありアクセスしやすい保育と地域活動の拠点ができる。また、当該敷地の交通利便性の高さも生かして、大型公共施設の配置等が可能な余剰地が生まれる。

【関連する解決策】②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

課題

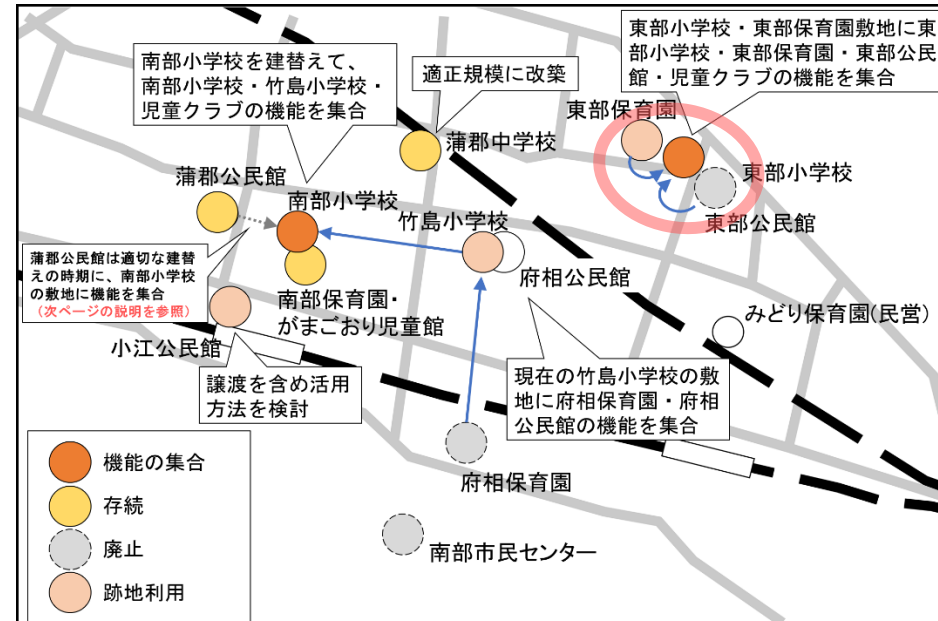
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。
- 小江公民館の建物の活用方法の検討が必要である。
- 津波・高潮の浸水域に立地する府相保育園を当面現地で存続させるため、移転するまでの安全対策が必要である。

ご意見に基づく追加プラン

A'

A案の東部保育園の位置を変更したプラン

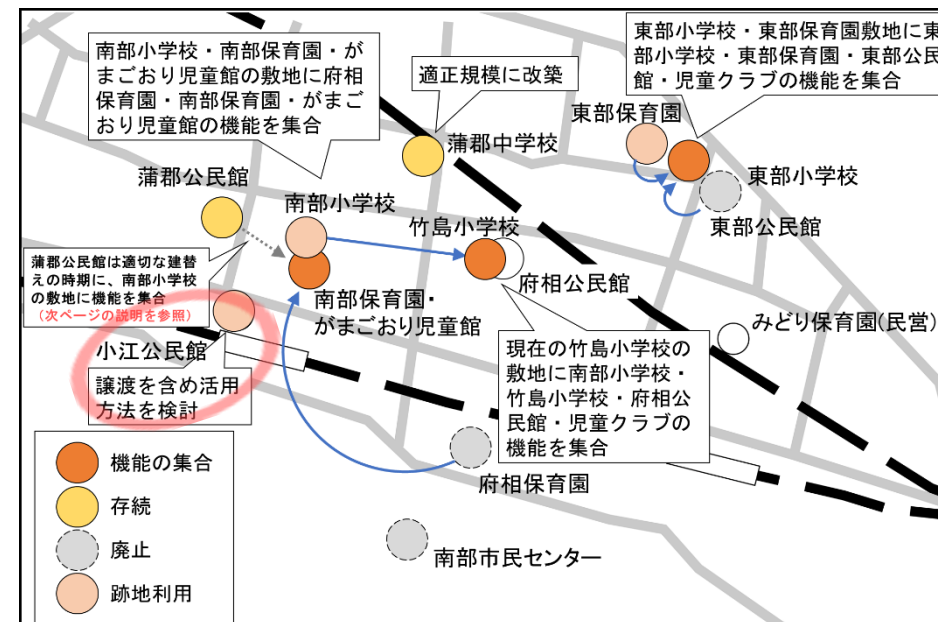
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校と東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。



B'

B案の小江公民館を「譲渡を含め活用方法を検討」に変更したプラン

- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。



特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 竹島小学校で実践される学校と地域との連携が強化される。
- 保育園・児童館・公民館の機能が集まり、子育てに関することを中心に多様な活動ができる拠点ができる。

【関連する解決策】②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫

課題

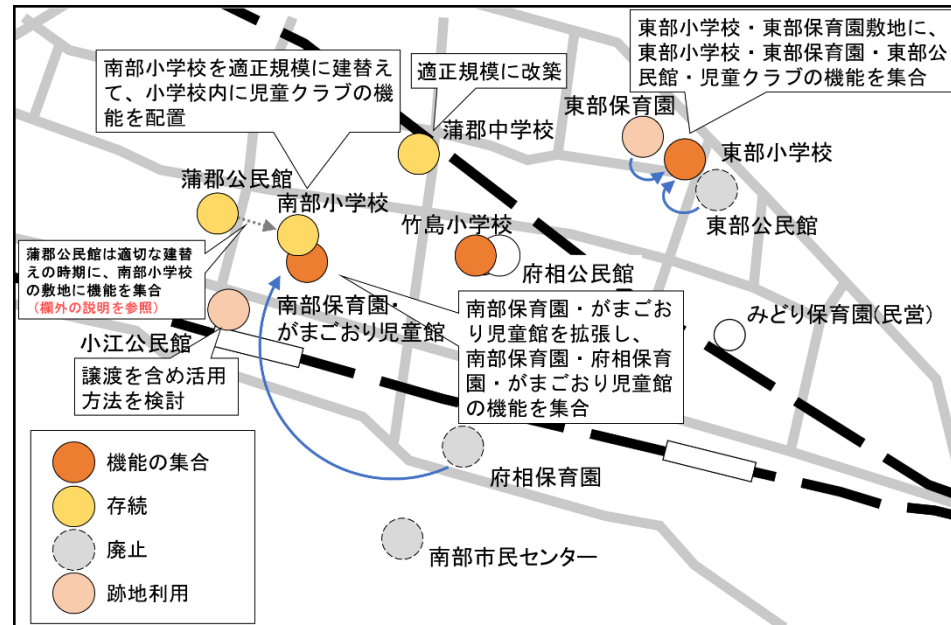
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。

C

徒歩でのアクセスを維持するプラン ①

【重点を置いた解決策】⑦⑨

- 蒲郡南部小学校を適正規模に建替え、児童クラブ機能を配置します。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校、東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。
- 南部保育園・がまごおり児童館を拡張し、南部保育園、府相保育園、がまごおり児童館の機能を集めます。
- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。



特徴

- 小学校が現地に残るため、各学校への通学アクセスが保たれる。
- 各小学校に公民館機能が集まることで、地域での活動・交流が活性化する。
- 東部地域としてのまとまりが保たれる。

【関連する解決策】②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

課題

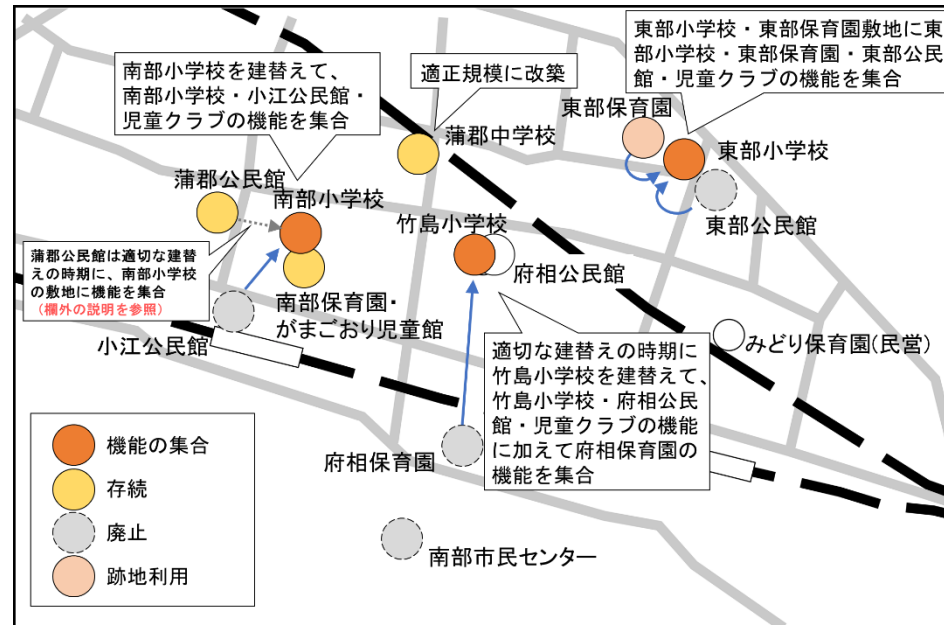
- 学校数を維持するため、費用負担が大きい。また、児童数の減少に伴い、子ども同士の交流機会や部活動の選択肢の減少が予想される。
- 小江公民館の建物の活用方法の検討が必要である。

D

徒歩でのアクセスを維持するプラン ②

【重点を置いた解決策】②⑨

- 蒲郡南部小学校の敷地に、蒲郡南部小学校、小江公民館、児童クラブの機能を集めます。蒲郡公民館については、適切な建替え時期に機能を集合します。
- 竹島小学校の適切な建替えの時期に、竹島小学校、府相公民館の機能に加え府相保育園の機能を集合させます。
- 蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校と東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点をつくります。



特徴

- 各小学校に公民館機能が集まることで、地域での活動・交流が活性化する。
- 小学校・保育園・公民館への徒歩でのアクセスしやすさが保たれる。
- 東部地域としてのまとまりが保たれる。

【関連する解決策】②④⑤⑥⑧⑨⑩⑪

課題

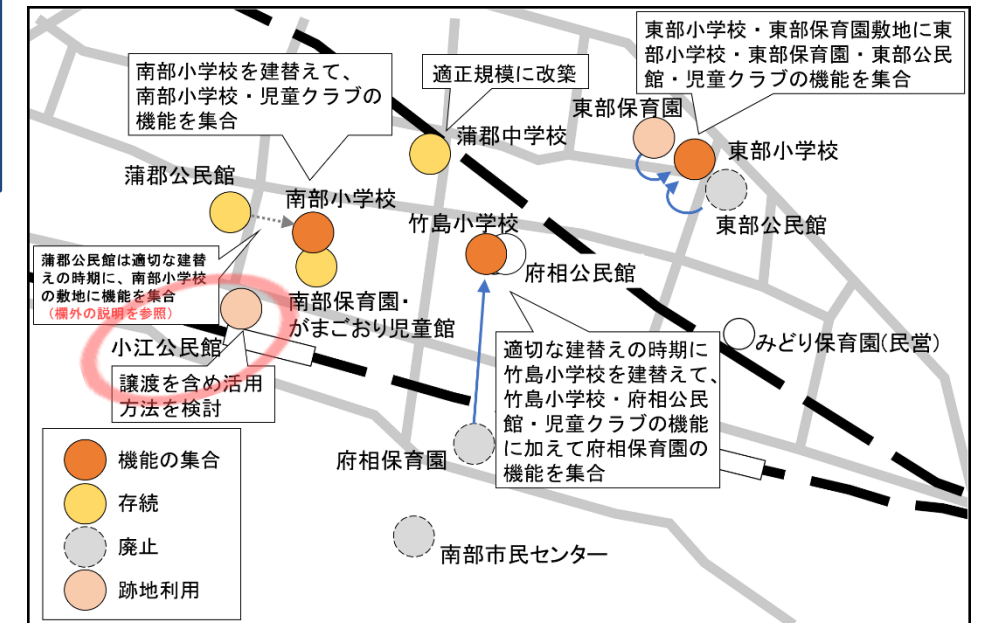
- 学校数を維持するため、費用負担が大きい。また、児童数の減少に伴い、子ども同士の交流機会や部活動の選択肢の減少が予想される。
- 津波・高潮の浸水域に立地する府相保育園を当面現地で存続させるため、移転するまでの安全対策が必要である。

ご意見に基づく追加プラン

D'

D案の小江公民館を「譲渡を含め活用方法を検討」に変更したプラン

- 小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。



(蒲郡公民館の扱いについて)

全ての案で、「蒲郡公民館は、適切な建替えの時期に、南部小学校の敷地に機能を集合」とし、点線の矢印で表現していますが、これは、現状の建物が耐久性を保てる期間は活用し、老朽化等により活用が難しくなった段階で、南部小学校に機能移転することを想定しているものです。

ただし、蒲郡公民館は、平成 26 年に建設された新しい建物であり、今後、長期間にわたり現地で存続させることが適当であることから、地区個別計画に機能移転等についての計画を記載する予定はありません。

なお、蒲郡南地区（蒲郡中学校区）に限らず、蒲郡北地区（中部中学区）の多くの住民の皆様（特に公民館が無い中央小学校区の住民の皆様）も蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡北地区の住民の皆様のご意見もお聴きした上で、市は、蒲郡公民館の機能の将来の配置等について検討していきます。

再配置プラン案の評価検証【修正版】

1 再配置プラン案を比較評価するための評価軸

視 点	内 容	評価項目
① 地域での活動・交流の盛り上がり	● 地域コミュニティの中心となる施設が整備されているか。 ● 世代間交流が活性化される施設配置となっているか。 ● 中高生など若い世代が集まれる場所は整備されているか。	ア 地域のコミュニティの中心となる施設があるか。（現在の小学校区程度の範囲に誰でも集まれ、地域の活動ができる場所があるかを評価） イ 地区住民同士や異なる世代間の交流機会は生まれやすくなったか。（施設同士の位置関係で評価） ウ 中高生など若い世代が集まり、活動・交流しやすくなったか。 キ 子ども達の地域とのつながりは強まっているか。強まりやすくなったか。（学校と公民館の関係で評価） （視点②から視点①に移動）
② 学校教育環境の適正化	● 適切な学校規模が維持されているか。 ● 学習環境や活動内容が充実しているか。 ● 学校の配置は適切か。	エ 適切な学校規模が維持されているか。（30年後の学校規模を国の基準にあてはめて評価） オ 小学校の学習環境や活動内容は充実しているか。 カ 小学生の通学しやすさは保たれているか。（小学校の周辺年少人口で評価）
③ 子育てしやすい環境づくり	● 活気のある子どもや親の活動拠点はできているか。 ● 子育てしやすい環境が整備されているか。	ク 子育てに関する様々な活動がまとめて行える子育ての拠点ができているか。連携しやすくなったか。（小学校・保育園・児童館の位置関係で評価） ケ 放課後や休日に小学生が遊ぶ場所は充実しているか。（児童館や公民館の小学校との位置関係で評価） コ 保育園児や小学生を同時に送迎しやすくなったか。（保育園と児童クラブ機能の位置関係で評価） サ 保育園に自動車で送迎しやすくなったか。（保育園の周辺道路環境と駐車場の確保しやすさで評価） シ 小学生にとって児童クラブが利用しやすくなったか。（児童クラブ機能と小学校の位置関係で評価）
④ 高齢者のにぎわい	● 高齢者同士で活発に活動したり、互いに支え合う環境は充実したか。 ● 高齢者が地域と関わりを持ちやすいか。	ス 高齢者が活躍できる機会は増えたか。（公民館の周辺環境の充実度で評価） セ 高齢者が地域との関わりを持ちやすくなったか。（公民館と他施設の評価）
⑤ 安全の確保（地域防災・利用者の安全）	● 安全の確保された立地となっているか。 ● 避難所・避難場所の数や位置は適切か。 ● 機能が集合した施設の防犯対策・安全面への配慮がされているか。	ソ 津波・高潮の危険を避けられる施設の配置になっているか。 タ 津波・高潮の想定浸水域に立地している施設が速やかに移転できる配置になっているか。 チ 災害時の避難所・避難場所は確保されているか。 ツ 利用者の防犯面での安全は確保されているか。 ニ 通学の安全性は高まっているか。
⑥ 利便性の確保	● 1カ所で多様な活動が行えるようになったか。 ● 各所から通いやすい施設配置となっているか。 ● 駐車スペースは十分確保されているか。	テ 1カ所で多様な活動が行えるようになったか。 ト 公民館に高齢者が徒歩で利用しやすい配置になっているか。 ナ 公民館に駐車場は十分に確保されるか。
⑦ 将来負担の縮減	● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。	一定期間の施設にかかる総コストが低いものを評価する。 ・面積が小さいなど、建替え・改築費・改修費・修繕費が安価な場合は総コストが低くなる。 ・土地の売却や借地の返還が発生する場合は、総コストが低くなる。 ・面積が小さいなど、建物の維持管理費（光熱費・保守点検費等）が安価な場合は総コストが低くなる。

2 評価方法

- 視点①～⑥については、評価項目ごとに ◎：現状より向上、○：現状維持もしくは**一長一短がある**、●：一長一短がある、△：現状より低下 の**3段階4つの区分**で評価します。
- 視点⑦については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額に基づき評価します。（試算の結果及び条件等は別冊資料「項目ごとの評価の解説【修正版】」p.17～22のとおり。）
- 府相公民館は、竹島小学校敷地への移転・建替えが実行されている状態を前提として評価しています。
- 蒲郡公民館は、現地で現状のまま存続するものとして評価しています。

3 項目ごとの評価結果

視点	評価項目	A 案	A'案	B 案	B'案	C 案	D 案	D'案
① 地域での活動・交流の盛り上がり	ア 地域のコミュニティの中心となる施設があるか。(現在の小学校区程度の範囲に誰でも集まれ、地域の活動ができる場所があるかを評価)	○	○	○	○	○	○	○
	イ 地区住民同士や異なる世代間の交流機会は生まれやすくなったか。(施設同士の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ウ 中高生など若い世代が集まり、活動・交流しやすくなったか。	○	○	○	○	○	○	○
	キ 子ども達の地域とのつながりは 強まっているか。 強まりやすくなったか。(学校と公民館の関係で評価) (視点②から視点①に移動) ※	△	△	◎	◎	○	◎	○
② 学校教育環境の適正化	エ 適切な学校規模が維持されているか。(30 年後の学校規模を国の基準にあてはめて評価)	◎●	◎●	◎●	◎●	△	△	△
	オ 小学校の学習環境や活動内容は充実しているか。	○	○	○	○	○	○	○
	カ 小学生の通学しやすさは保たれているか。(小学校の周辺年少人口で評価)	○	○	○	○	○	○	○
③ 子育てしやすい環境づくり	ク 子育てに関する様々な活動が まとめて行える子育ての拠点ができているか。 連携しやすくなったか。(小学校・保育園・児童館の位置関係で評価)	△	○	△	△	◎	◎	◎
	ケ 放課後や休日に小学生が遊ぶ場所は充実しているか。(児童館や公民館の小学校との位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	コ 保育園児や小学生を同時に送迎しやすくなったか。(保育園と児童クラブ機能の位置関係で評価)	△	○	△	△	◎	◎	◎
	サ 保育園に自動車で送迎しやすくなったか。(保育園の周辺道路環境と駐車場の確保しやすさで評価)	◎	◎	◎	◎	△	◎●	◎
	シ 小学生にとって児童クラブが利用しやすくなったか。(児童クラブ機能と小学校の位置関係で評価)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
④ 高齢者のにぎわい	ス 高齢者が活躍できる機会は増えたか。(公民館の周辺環境の充実度で評価) ※	◎●	◎●	◎	○	○	◎	◎
	セ 高齢者が地域との関わりを持ちやすくなったか。(公民館と他施設の関係で評価) ※	◎●	◎●	◎	◎	○	◎	◎
⑤ 安全の確保(地域防災・利用者の安全)	ソ 津波・高潮の危険を避けられる施設の配置になっているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	タ 津波・高潮の想定浸水域に立地している施設が速やかに移転できる配置になっているか。	○	○	◎	◎	◎	○	○
	チ 災害時の避難所・避難場所は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○
	ツ 利用者の防犯面での安全は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○
	ニ 通学の安全性は高まっているか。	△	△	○	○	○	○	○
⑥ 利便性の確保	テ 1 力所で多様な活動が行えるようになったか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ト 公民館に高齢者が徒歩で利用しやすい配置になっているか。	○	○	○	○	○	○	○
	ナ 公民館に駐車場は十分に確保されるか。	◎	◎	◎	○	○	○	○
⑦ 将来負担の縮減	LCC(ライフサイクルコスト) 試算における 50 年間の縮減額(単位: 百万円)	5,136	3,716	3,799	4,264	2,153	1,388	1,871
		◎の個数	7	7	11	9	8	10
		○の個数	8 44	10 43	8	10	12 44	10 40
		●の個数	3	3	1	1	0	1
		△の個数	4 3	2 4	2	2	2	1

【記号の意味】 ◎：現状より向上、 ○：現状維持、 ●：一長一短がある、 △：現状より低下

※印の項目(キ・ス・セ)は、東部地域に限定して検証すると、全ての案が同条件で、「現状より向上」となるため、東部地域以外の施設を対象として評価した。

評価結果点数表（参考）【修正版】

- 視点①～⑥については、各評価項目の ◎=2点、○=1点、●=1点、△=0点として足し合わせ、75点に得点割合を乗じた値を下表のⅠにまとめました。
- 視点⑦については、50年間のLCC（ライフサイクルコスト）の縮減額の最も高い案を25点とし、その他の案は縮減額に比例して減点した値を下表のⅡにまとめました。
- ⅠとⅡを足し合わせ100点満点で合計を計算しました。

Ⅰ 地区の魅力や安全に関する項目（視点①～⑥）についての評価 （75点満点）

A 案	A' 案	B案	B' 案	C案	D案	D' 案
42.61	46.02	52.84	49.43	47.73	52.84	52.84
44.64	48.21	53.57	50.00	48.21	53.57	53.57

Ⅱ 将来負担に関する項目（視点⑦）についての評価 （25点満点）

A 案	A' 案	B案	B' 案	C案	D案	D' 案
25.00	18.09	18.49	20.76	10.48	6.76	9.11

縮減額 (5,136 百万円) (3,716 百万円) (3,799 百万円) (4,264 百万円) (2,153 百万円) (1,388 百万円) (1,871 百万円)

合計（Ⅰ＋Ⅱ） （100点満点）

A 案	A' 案	B案	B' 案	C案	D案	D' 案
67.61	64.11	71.33	70.19	58.21	59.60	61.95
69.64	66.30	72.06	70.76	58.69	60.33	62.68

付帯事項について

施設の再配置を実施後に配慮すべきことや実施する上で注意すべき事項（運営面での工夫等）を抽出・整理しましょう。

（参考）これまでにいただいたご意見

視 点	ご意見
① 地域での活動・交流の盛り上がり	・ 行政区と学校区の不整合を解消する。 ・ 公民館の活動をわかりやすく伝えとともに、住民からどのような活動がしたいか聞き取る機会を設ける。 ・ 公民館は、類似するクラブや活動は統合して、時間や場所を有効利用できるようにする。 ・ 公民館で中高生のための居場所づくりをする。 ・ 公民館を若者が利用したくなる施設にするために、防音室やワンフロアの広い部屋、スポーツジム等の整備、利用しようと思いたくなるプログラムづくりを行う。 ・ 公民館に Wi-Fi やインターネット環境を整備する。 ・ 公民館に音楽演奏やダンスの練習ができる機能を設ける。 ・ 公民館を夜間利用（午後8時頃までの利用）ができるようにする。 ・ 子ども達と地域のつながりが強まるよう、公民館で行われる文化サークルと小学校が連携するなど、運営の工夫を行う。
② 学校教育環境の適正化	・ スクールバスの導入により学校区を広くする。 ・ 小学校と統合しない場合には、部活動を存続させるためにソフト面の工夫を行う。 ・ 小学校を統合する場合には、児童の整備途中での転校を避けて整備を進める。 ・ 保育園の音が児童の勉強の妨げにならないよう配慮する。

③ 子育てしやすい環境づくり	・ 休日保育や病児保育等のサービスを充実させる。 ・ 小学校が移転する場合の跡地には、子育てに役立つ新たな機能の配置を検討する。 ・ 運動場など必要が機能には、十分な面積を確保する。 ・ 新しい保育園では、自園調理を行う。
④ 高齢者のにぎわい	・ 健康づくりや介護予防などで、高齢者が同世代で支え合う仕組みをつくる。 ・ 多世代が利用する施設の感染症対策を実施する。 ・ 公民館が高齢者により良いサービスを提供することで有効利用を促進する。
⑤ 安全の確保（地域防災・利用者の安全）	・ 災害時に住民の自主防災組織など、地域と連携を取れる体制を整える。 ・ 災害時の観光客への対応方法を検討する。 ・ 避難所や災害時の車避難経路、駐車場の位置について周知を徹底する。 ・ 必要な救援物資を確保する。 ・ 安全に配慮した通学路や周辺道路環境を検討する。 ・ 通学距離が延びた場合に、特に小学校低学年の交通安全について配慮する。 ・ 機能間で仕切りを設けるなどの安全対策をする。
⑥ 利便性の確保	・ 採算性や利用率を考慮しながら、コミュニティバスや乗合タクシーなどの交通手段の導入を検討する。 ・ 機能に応じた適切なスペースを確保する。 ・ 竹島小学校が移転した場合には、全市的な施設やグラウンドの整備を検討する。
⑦ 将来負担の縮減	・ 空き教室を活用する。
⑧ 運営の改善	・ 公民館は、名称変更をしたり、市の窓口業務も対応するなど、利用率を上げる取り組みを実施する。 ・ インターネットでの予約を可能にする。 ・ 運営に民間のノウハウを導入する。

本日の検討内容

- ① これまでのワークショップでの検討内容や評価結果を踏まえると、将来の蒲郡南地区の公共施設の配置としてふさわしい案はどの案ですか。
どのようなことを重視してその案を選びましたか。

- ② 皆様が将来の蒲郡南地区にふさわしいと考える再配置プラン案を整理しました。
各案について配慮すべきことや実施する上で注意すべきことはありますか。